

教育委員会定例会会議録

開催日時	令和8年6月25日（木）午前9時00分
開催場所	リバリス1階会議室
出席委員等	委員 金永 俊一、委員 上西 幸子
	委員 横井 きよみ、委員 倉永 慎一
	教育長 恵利 修二
欠席委員	なし
上記以外の出席者	専門監 本田敬、国スポ推進室長 廣瀬孝一、 補佐 橋本敏博、国スポ推進係長 黒木陽、社会教育係長 佐々木恒太、 学校教育係長兼給食センター係長 稲田宏美

・教育委員会定例会の開催

1 開会のことば

橋本課長補佐

- ・ただ今から令和8年6月木城町教育委員会定例会を開会します。

2 教育長あいさつ

恵利教育長

- ・まさしく梅雨本番のお天気が続いておりますけども、台風7号の接近ということで上陸が予想されて心配なところであります。土曜日が最接近のようですが、だんだんスピードも出てきているいろんな行事の中止や延期の連絡が入っております。木城学園は土曜日が参観日なんですね。その判断は出ていないんですけども、9年生がここKONマルシェに参加してボランティア体験活動を行う予定だということを聞いていまして、マルシェの動向も注視しなければならないというところで、今日マルシェ実施の判断があると聞いております。また本日からですね、梅雨の晴れ間というか雨が上がっている状況ですが、8年生が2日間の職場体験学習に参加をしております。町内の15事業所、そして、町外3つの事業所、合わせて18事業所にですね、机の上ではできないキャリア教育、働くことへの教育を行うということです。ちなみに2年生の町探検ということで、ここでも木城っ子見守り隊の方4名の方にご協力いただいて、教育課の銀鏡主事も一緒に行って、子供たちもその地域の方々からも学んでということでございます。さて中体連の地区大会も無事終了しまして、県大会出場の部もはっきりしたところです。しかしながらどの競技も健闘したようであります。県大会出場の種目としては、剣道女子個人が1名、陸上9年生が3名、7年生が6名、女子共通りレー4名の生徒たちがまず県大会です。そしてソフトテニス女子団体は優勝しまして、あとペアについてはベスト8に入れば県大会に行けるそうですがそのうち4ペアが出場を決めているようです。あと柔道は予選なしで直接県大会出場ということであります。また木城学園の名前を背負って、精一杯健闘してくれるものだと思っております。結果についてはまた、教育委員会でお知らせします。もう1つの話題ですけども、“種をまく”の下の方に載せてございますが、県の英語と数学のテストがあるんですね。県英

テスト、県数テストというのがあって、5月ぐらいにあるんですかね。英語が8年生と9年生、県数が7・8・9年生が実施されたようです。すべての学年がぐんとそして県の平均を大幅に上回っておりまして、点数に一喜一憂することなく、平均より下であっても上であっても一喜一憂することなく、冷静にこの点については喜ぶたいなと思っております。このところ非常に毎年こういうテストについては好成績をおさめていまして、すべての先生方、これまで関わった先生方、すぐにできるもんじゃないので、その積み重ねのチーム木城力の結果だなあとと思っています。これについては、やはり落ち着いた環境、そして豊かな人間関係が、校内もそうですけど、先ほど言いました地域の方々の支援、この傾向が続いていますので、伝統と誇り、木城学園の1つのそういうものになっていって欲しいなと思うし、子供たち自身、先生方、皆さんがですね、そういう木城学園だと思っていくことが大事かなと思っております。繋がって欲しいなと思っております。今日は3つほどまたご説明、報告がございますがどうぞご意見のほどよろしく願いいたします。

3 議長選出

[恵利教育長に議長をお願いしました。]

4 6月期定例会会議録署名委員の指名(恵利教育長・上西委員)

5 議題及び議事

(1) 5月期定例会会議録の承認について(恵利教育長・横井委員)

[事前に送付していた5月期定例会の会議録について承認され、委員において署名]

(2) 事務局報告事項

①教育長報告

・[6月行事報告と合わせて報告]

②行事報告及び行事予定

6月行事報告)

恵利教育長

- ・6月1日(月)第40回木城町福祉スポーツ大会
- ・6月3日(水)6月議会一般質問打合せ
- ・6月5日(金)第3回木城町議会定例会「開会」(~11日)
- ・6月7日(日)みやざき県民スポーツ大会「アーチェリー競技」荒天のため中止
みやざき県民スポーツ大会「エアロビック競技」
- ・6月9日(火)中部教育事務所来庁
- ・6月12日(金)みどりの会
- ・6月14日(日)木城町消防フェスタ
- ・6月15日(月)政策調整会議
- ・6月16日(火)木城温泉館湯らら「水神祭」
木城町国スポ実行委員会総会事前説明
- ・6月17日(水)海外派遣事業実行委員会(書面開催)
- ・6月19日(金)石井記念友愛社訪問
- ・6月21日(日)木城町自治公民館ミニバレーボール交流大会

- ・6月23日（火）地域おこし協力隊活動報告会
 - ・6月24日（水）定例課長会
地域学校協働本部「全体活動」
 - ・6月25日（木）木城町教育委員会6月定例会
第2回西都児湯社会教育指導員部会
市町村教育委員会研究協議会
第1回海外派遣事業事前研修会
 - ・6月26日（金）宮崎国スポ 木城町実行委員会総会
2027みやスポ神話会（中止）
 - ・6月27日（土）第4回ココkonマルシェ in 木城町オープニング（～28日）
 - ・6月28日（日）職員採用試験（面接試験）
 - ・6月29日（月）県義務教育課長来庁
 - ・6月30日（火）高城合戦ボランティア養成講座
- 以上が6月行事でございます。続きまして、7月、8月行事予定について課長補佐から説明をお願いします。

7月行事予定）

橋本課長補佐

- ・7月1日（水）木城町議会臨時会（予定）
ふるさと振興協会新旧理事長あいさつ
第76回「社会を明るくする運動」内閣総理大臣メッセージ伝達式
- ・7月3日（金）木城町学校給食調理場運営委員会
- ・7月7日（火）通学路合同点検
被爆81周年原水禁九州横断平和行進キャラバン隊来庁
- ・7月10日（金）福寿大学・中央婦人学級合同（学園授業参観及び給食試食）
- ・7月17日（金）学校支援訪問
- ・7月24日（金）サマーワークショップ
木城学園1学期修業式
- ・7月27日（月）義務教育学校海外派遣事業出発式
埼玉県毛呂山町受け入れ交流事業（～28日まで）
- ・7月30日（木）仮）木城町教育委員会7月定例会
義務教育学校海外派遣事業到着解散

【参考】

8月行事予定）

- ・8月8日（土）第16回木城盆おどり大会
- ・8月15日（土）木城町戦没者供養祭式典
- ・8月18日（金）国スポ弁当に係る第1回試食会
- ・8月20日（木）仮）木城町教育委員会8月定例会
仮）令和8年度総合教育会議
- ・8月26日（水）第2回自治公民館長会
- ・8月27日（木）木城学園2学期始業式
- ・8月30日（日）仮称）高鍋神楽国指定記念公演及び祝賀会

7月、8月行事予定については以上です。

金永委員

- ・教育長のお話の中で、議会でいろんな質問が教育委員会に関することがたくさんあったりということで、気にかけてほうがいいというようなことはありますか。

恵利教育長

- ・高城合戦を今後どうするかっていうことですね。あと、木城学園の ICT 教育の取り組みのことで、視力との関係性で与える影響はないのかっていうことで、何年か前からの統計を調べてみたんですけどその相関関係はわからない。言えない。ICT の扱いだとか、家庭でのスマートフォンの取り扱い、そういうことについては引き続ききちんと指導してもらいたいということ。あとは生き方教育ということで、生きる力、生きる力をどうとらえているのかということで、木城学園ではキャリア教育ふるさと教育を含めて、学力も含めて総合的に子供たちの力を高めていこうとしています。魅力ある教育活動を行っていますし、学力も上がっているということで、あと地域の方との連携も含めて先ほど言いましたキャリア教育、ふるさと教育を取り組んでいる次第で、そういう全体的に生きる力を高めていきますというそういう質問が出されました。特段それをもっとこうしていかなければとかいうものではなく、私個人としては、応援のご質問いただいたなあとと思いまして、取り組みを説明させていただきました。

金永委員

- ・そもそも懸念されてることに対する質問はなかったですか。ICT の視力の関係だけですか。

恵利教育長

- ・懸念は特段してなかったんですけど、調べてみたらそういう結果でした。視力は端末を入れた時代からぐっと落ちてるとかそういうことは全くなかったですね。

金永委員

- ・ただ数年前から県の保健師が、小学校 1 年生も 0.1 ぐらいの子が何十パーセントいるとかという報告を出していて、それと同時に専門家ですね医者とか、大学の先生なんかが言われているのも ICT と視力の関係。時間の制限というか、その辺はやっぱり気をつけたほうがいいのかというようなコメントを出されていますね。だから私、前もちょっと意見したかもしれないんですけど、心配したのはどの授業も ICT を使っているとすると、朝から終わりまで眺めるのかなと思うと、長時間の使うことになるかなと思って心配して言ったところでした。そのときに養護教諭の方たちのコメント、やっぱり心配になるなと思ったところです。指導されるということでもいいと思うんですけども、家庭ではやっぱり時間ですね。家庭でも見る子は見るんじゃないかなという気がしてるんですよ。いろいろ間接的に聞くとですね。そのことによる生活の乱れとか、ちょっと情緒不安定になるとかですね、結局発散せずにそっちの方に行ってしまうとやっぱり感情的に溜まるかな。どっかで発散するとそれは荒っぽさで出てくることも考えられるので、やっぱり慎重にですねこの ICT 関係を見ていったほうがいいのかと思うから、ここで注意することと家庭との連携ですね。保護者へ

の啓発ですね。現在はそこを心配しています。それと同時に ICT を新聞の情報、専門家が出すところによると、ICT を見るが多くなるので書くことの失敗を指摘されているんですね。書写数、それが少なくなっていると。今は小さいから良いかしらんけど、社会人になったときどうなるだろうって心配です。私がもう 1 つ心配しているのは、学校が非常に冷暖房完備で環境はいいですからね。屋外での活動が遊びで発散する場所が発散する機会が非常に少ないかなあとなってくるとやっぱり、子どもはとても成長するからエネルギーがどんどん膨れますから、エネルギー膨らますのは悪いわけじゃないからですね、エネルギーは生理的に膨らんでいくからですね、成長の段階で発散しないとね。普通は遊んでふざけあって出すんでそれが無いとどこかで溜まって何かの機会に爆発するかなとちょっと心配しているところもあり、やっぱりそういうところちょっと学校の方で見ていってもらえると安心かな。将来長期的に見たときにですね、その子たちが社会人になってやっぱり安定した社会生活、今からねそういう目で見ていくことが必要だろうという感じで。おっしゃる通り積み重ねだからいよいよ社会人だからしっかり頑張れよ、気持ちを落ち着けようとかね。勉強も一生懸命さ、仕事もその時になっては一気にできるかとやっぱり小さいときの積み重ねだから。でも、何か勉強の方は前も大学が年内入試を取り上げているということは、推薦でやると学力試験を課さないもんですから、大学も推薦でとったけど学力が見あわないなというのがあって、年内の推薦入試でも学力試験を認める。そのかわり面接だけはちゃんとしなさいというのは方針を国が出しましたが、高校はどうするかなと思ったらやっぱり高校の推薦は、そのまま今までどおり取り入れるという姿勢ではないように感じたんですよ。

恵利教育長

・よろしいですか。ちょっと話がいろいろ広がりましてのでまず整理したいのが 1 つペーパーレスと、タブレットのバランスの質問がありました。ノート活用を書くことを大事にすることと、端末が出てきたことでそれがなくなってきたんじゃないかなということで、木城学園もどの学校もそうですけども、やっぱり端末だけに偏るのではなくて、年齢層によって各活動だったり、例えば 1・2 年生の生活科だったら直接体験を大事にしたい。触れるとか気づくとかそういうことを大事にすることをやっぱりバランスよく、そもそも学習指導要領がそうなっているんで、そこに加担の無いように木城学園でもやっぱり書くこと、バランスよくやってるということです。そうしたところが 1 つ。もう 1 つが、家庭での取り組みですね。家庭でノーメディアデー等も設定しています。メディアを使わない日です。家庭の日です。やっぱり学校保健委員会等そういった啓発も行っているということを知っています。

金永委員

・いいですね。そういう視点が欲しいなと思っていましたから。

恵利教育長

・そういうことを継続して、いろんな家庭がいらっしゃるので、なかなかいっぺんにという

ことはできないんだけど、やり過ぎるといかんよということを啓発していき続けるということは大事な。委員がおっしゃったようにですね。それをやり続けたいなと思います。あともう1つが、やはり、快適な生活の中で快適すぎて、家でもそうですよね。もう体験がなくなったと言えはもう非常に大きな子供たちの生活の状況の変化と言えは大きいので、今までやってたような直接体験だとか、スポーツの体験だとか、そういうことをできるだけ欠かさないようにしっかりやっていくというのは大事なと思っております。

金永委員

・最近の新聞でやっぱり汗をかかない生活をしてる大学の先生の記事が載ってたんですが、だからやっぱり汗をかくってことは生理的に必要なんですよ。無理してかくんじゃなくて、日常生活で小さい子が汗をかくってことは成長のために必要なんですよ。脳と関係してるから、脳を発達させるために成長の過程でこの年齢ではこのぐらい発達しないといかんっていうのがあるから、書いたり口に出したりとか読んだりとかするんですけど、教育課程の中にはあるんですけど、それがちょっと飛び越えながら行っていると、その年齢にとって必要。その年齢でそうあるべきものが備わってないと後々、何か大きな問題が起きないかな社会問題が起きないかなというふうにちょっと考えたりするもんですから。先に言ってしまうと申し訳ないんですけど、学校がいいだけに学校環境はもちろんいいんです。ありがたいばかりでいいものを作ってもらったと。ただそれに甘んじてしまってはいけないと。というのは、教育長がおっしゃった、英語の方でも非常に良くなったと良くないのもあるけれども、そんなに気にすることはないといろいろあるんですけども、それはいいと思うんですよ。ただやっぱり子供のときは伸びたいっっちゃうのがあるんですよ。伸ばしたいっていうのが、そこまでせんでいっちゃが、雰囲気的にここまでいけばいいんだよという雰囲気を感じているところもあるもんですから。個人によってやっぱり違うと思うんですけども、苦勞してもいいから伸びたいと、それはスポーツでも芸術でもそうするんですよ。体壊すぞと言っても、無理して走ったりとか飛んだりとか、徹夜でやったりとか頑張るんです。それは人間の本能。そうするからそれがね、どっかで止められてしまうと方向を失うな。どっちに行ってもいいかわからない子もしばしば見かけた感じがしたもんだから。

恵利教育長

・木城学園でですか。

金永委員

・すいません。そういうのがちょっとあるなと思うんです。

恵利教育長

・一人一人に応じた指導はきちんとやっている。木城学園ですので、やっぱりその子に応じた目標をしっかりと定めて、全然違う方向を向いている子に強制的に方向づけさせたりすることはやっぱり避けていらっしゃると思うし、その子の目標、さっき言いましたように私も点数に一喜一憂することはないって言ったのは、全員がその何点目指そうとかいう軸で

はないので、しっかりしたその子に応じた目標を設定したいんですね。そのことは、この結果に出てるんじゃないか。しかも点数だけじゃなくて、自分が木城学園後期を卒業するときには、どういう生き方を目指すのかなという出口の教育。そこら辺をしっかりと見据えながら、子に応じた学力をつけていくと。点数だけじゃないんだよということを委員が言われたような、個々に応じた、無理させないような、しかし、若干無理はさせないといけないということも言われましたので、そういうことも大事にしながら個に応じたということは大事なかなあと思っています。そういうことでやっていきたいと思います。

金永委員

- ・その個に応じたっていうところがですね、ちょっと放置的にならなければいいがという懸念心配ですよ。実際現場で見てるわけじゃないから私はね、聞いたりなんたりちょっと間接的にみたりとかいうことです。

恵利教育長

- ・またその心配な特にこの子については、どこら辺でということはまた個別に教えていただければと思います。よろしいでしょうか。

金永委員

- ・そういうことで、子どもはエネルギーがどんどん膨らんで成長の過程にそれが出されるように運動の中でも勉強の中でもね、やっぱり関係の規律から離れる場合には、やはり、離れたとしても、それから個に応じたとなってしまうと、集団生活から離れすぎていくと・・・

恵利教育長

- ・よろしいですか。集団生活から乱れたことを個に応じて許しますよって言っているわけではないんですよ。その子はその子なりに乱れるという理由があって、乱れるその背景には何かがあるわけですよ。家庭だったりその子の成長だったり。だから、かつてのように強制的に引っ張ってきて、たたきまわして暴力で直すとかそういうことじゃないんですよ。その個に応じてどう支援していくかということで、やっぱり悪いことは悪いと言いなながらも、言い方を変えたり、いざない方を変えたり。そういう学校だけじゃなくて、実はいろんな福祉の方との連携した支援だとか、やっぱり学校と教育委員会だけではなかなか解決できない部分があるので、多分、そういう心配をしていただいているんだろうなと思うのは、木城では木城町福祉共生課から子供センターの方々と連携してですね、随時会議を開いています。

金永委員

- ・それも必要ですけどそれだけではやっぱりだめだと思う。やっぱり家庭ですね。

恵利教育長

- ・その家庭支援のために、福祉の方との連携をやってるわけですよ。学園も家庭との連携や保護者の方との親密な話し合いや、やっぱり何かあったら連携をする。例えば虐待の様相が見られたらすぐに、児相との連携もありますし、そういうことも瞬時に翌日にはすぐ

対応する、即日に対応するというようなことをやってますし、委員がおっしゃったようにやっぱ家庭が今一番いろんな多様な家庭がありますので、そこら辺はしっかり見ていかないとと思います。

金永委員

- ・その第三者との機関はこれはもう法務的にやりますから。ただやっぱり学校と家庭は非常に連携しておかないと、保護者と教員の信頼関係ですからね。頑張ってくれている自分を見てくれているとか、でもやっぱちょっと手伝わないかとか。そのためのいろんなコミュニケーションをしっかりとってお互い信頼関係を高めるように、やっぱり家庭の方の意識啓発を行いながら、最終的に子供に気づかないのではと。だからそれがね、結局個に応じただけで終わってしまうと。

恵利教育長

- ・個に応じてというのは子供だけじゃないんですよ。

上西委員

- ・ちょっとよろしいですか。今お話を聞いていて、私も小学生と中学生の子供がいるんですけど、先生と子供の信頼関係っていうのは、中学生は毎日先生と生徒のやりとり帳といって、毎日子供が先生とのやりとり交換日記をしてそれに対して先生がコメントを書いているのを3年間してくれているんです。心配なことがあったら息子はそれを書いて、先生はそれに対して答えてくれる。親も見てもそれに対してこれは親が書かないといけないなあと思うときはそれに対して親も書いてくる。小学生も3行日記というのがあって、毎日毎日宿題ではないんですけど、3行日記で先生とのやりとりをしているんですけど、先生と交換日記のようにしてくれているので、先生と子供との信頼関係は親から見るとすごく成り立っていると思われてもいいです。

金永委員

- ・それが大部分だと思います。ただそれから漏れている。

上西委員

- ・漏れている子もいると思うんですけどそれは全部を拾い上げるとこの場では言えないと思うんですよ。やっぱり実際に参観日に来て、やっぱり座れないとか、ちょっとちょっかいを出す子とかいるので、そこそこで1つ1つを私たちもしっかり観察して、絞っていかないと、この場では解決しないわけですね。

金永委員

- ・ごめんなさい。ちょっとそれをずっと見てて、何かそういう子がちょっと増えてきてるなと、ちゃんと家庭の方でだから、そうやって問題ないところはね全然もうもちろんないんですよ。その差をどんどん感じてきたから。だから、むしろ子どもより家庭との意思疎通ですね。連携ですね。こっちが今、学校が必要じゃないかなと思え始めたんですよ。むしろ子供たち、個に応じっていうのはその背景とかわかりますけども、どちらによく目を向けなくちゃいかんとか家庭かなとか、そのことは結局教員が楽になるわけですね。家庭

と連携することによって、もともと保護者の方がしっかりされてるところはね理解があるところはいいんですが、保護者がまだちょっと気づいてないとか、生活波にのれていないとかっていう時にやっぱり支援として、家庭との連携を密にすることによって、子供を中心に考えてそうすると家庭から先生が心配してくれてるとか、みんなでもっと協力的になっていきたいとか最終的に子供が改善してくると、距離がなくなるんですよ。これも私の経験上の話なんですよ。

恵利教育長

・よろしいですか。家庭との連携は子供を中心にしながら、上西委員も言われたように連絡帳を密にするとか、情報はやっぱり共有するだとか、心配されるような家庭は特にまたやっていきたいなと思っております。大事なことだと思います。さっき言われたような、これが心配だな、この子が心配だなあと思うことがあったら、直接、委員会の方にまたこういうことになっているよとかありましたら、連絡をいただければと思います。私たちも気づかないことがたくさんありますし、学校も気づかないことがあります。よろしかったでしょうか。それではその他ということで参ります。種を蒔くにも書いておりますが、「つながり」が育む安心の学び舎：みどりの杜木城学園の魅力についてということで、本田専門監に説明をお願いします。

本田専門監

・失礼します。イラストの入った資料です。アンケートの集約になります。実はこの6月の初めにみどりの杜木城学園の魅力・よさについてのアンケートというものを実施いたしました。なぜこんなことを実施しましたかと言いますと、全体として、私の目から見ても非常に子供たちの様子が落ち着いているなと感じております。特に後期課程の生徒たち中学生なんですけども、下の子に対して非常にやさしい素直な子供たちが多いなってところが見られます。問題行動等も少ないんじゃないかなというところも考えております。また学力も高まってきたなというところも感じております。ということで、こういったところからこういったよさが出ているんだろう数値としてエビデンスをもとにこういったことが書かれるといいなということで行ったのがこのアンケートです。アンケートの項目は、何枚かめくってもらいますと、赤とか青の円グラフで書かれてるものがありますけども。最初は5年生以上、自分のことを認識できる学校のことも客観的に見れる年頃かなということで5年生以上の子供たち、組み合わせて相関関係を見たいので、5年生以上の保護者の方もアンケートをお願いしたところでした。項目は1つ目が、学校で安心して過ごせていますかということ。とてもそう思う、そう思う、あまりそう思わない、思わない、の4択です。2つ目は、5・6年生へ上級生はやさしいと思いますかっていう質問で、逆に7年生から上は年下の子たちに対して気にかけてたり優しくしたりしていますかというふうに言葉を変えました。また3つ目は困ったときに相談できる人がいますかっていうもの。また最後には、この学校のよさはどこから生まれていると思いますかということも加えて質問をしてみました。それをまとめたのが、前の方のイラストがついたページになります。結果と

して着目したのがとてもそう思う、そう思う、の肯定的な回答で、90%以上の子供たちが学校で安心して過ごしているというふうに答えてくれました。これが高いのか低いのかっていうのは比べるところがありませんので判断はできませんけども、いい状態じゃないかなというふうには感じています。その下 95.4%の子供たちが、「下級生への思いやり」を実践している。上級生が下級生を世話し、下級生が上級生をお手本にする自然な繋がりができていることが数値でもわかりました。右上に魅力の源は何ですかっていう質問に対しては、やはり、異学年交流を上げた子供たちが保護者も含めて多かったです。学年を超えた関わり、生徒保護者ともに学年を超えた交流が学校のよさ第 1 位でした。こういうことがわかりました。めくって裏をご覧ください。基盤となる安心感とありますが、5・6 年生の 90.9%が、7 から 9 年生の 94%、保護者の方も 89.4%の方が、安心して過ごしているという回答が得られました。もちろんもっている情報の差によって差も出てくるかと思いますが、その時の状況にもよると思いますが、高い結果じゃないのかなというふうに考えています。その下です。数字が表すやさしさの循環と書きましたけども、年下の人に対して気にかけて優しくしているというのが、7 年生から 9 年生 95.4%いました。保護者の方も上級生の様子が下級生に良い影響を与えていると答えてくれました。5・6 年生も上級生が優しいと 88.1%の子供が答えていました。こういうふうに、確かに繋がっているんだなということが見てとれました。これをメカニズムとして表してみると、右の絵のようになるなというふうに考えています。そういった子供たちの行動が、この学校の良さに繋がっているなというのを表したものがここになります。また見かけますが、上級生が下級生を前にすることで「良き手本」としての自覚を持ち、下級生は頼れる存在が身近にすることで「安心」できる。こういった相互作用が、もしかすると従来から学校が抱えていたような課題を自然に解消して、一人一人が穏やかに成長できる環境を生み出しているんじゃないかなというふうに考えております。予想をしていた結果でもあったんですが、数字で良さをとらえることができました。今後地域の方にも、そして保護者や子供たちにも、学校に対してのポジティブなイメージをさらに深めていって、また使えるところがあればですね転入促進事業等にもこういった結果を掲載して、アピールもしていきたいなというふうに考えております。1 つの情報として説明したところでございます。以上でございます。

恵利教育長

・何かご質問ございますでしょうか。

金永委員

・いいですよ。いろいろ調査は必要と思いますが、ただちょっと私がいろんなことを見たり聞いたりする中で、子供の判断力っていうのはあとから出てくるかなとかいうのも考えたりするんですよ。判断力が正確かなとか何かわからないまま答えてるとか、だからこれは非常にありがたい結果としてはですね。ただいろいろこれでまた説明されるときにはね、ちょっと乖離している、自分が目にして聞いていることとちょっと離れてる感じがする

場合もあるかもしれませんですね。

本田専門監

- ・おっしゃることはよくわかります。例えばです保護者アンケート個別のコメント等も集めているんですけども、やはりもっとこうして欲しいなっていうふうなお声もあります。もちろん子供たちの中にも、そのときの気持ちによってはそうじゃないんだけどということもあったのかもしれませんが。今回の目的がですね、学校のよさ、魅力を捉えようということを目的にしたものだだったので、そういったよさを取り上げてみんなに共有しましょうという取り組みでした。

金永委員

- ・だから、ちゃんと押さえるところを押さえてのお話だったらいいが、これがすべて今はよかったよかったっていうのがあってしまつては課題解決に向かわないところがあるんですね。そういう意味では例えばね、押さえてもらっていたらいいんですよ。だからこの先生方も、1つ1つね、教育長がおっしゃった個に応じた教育も絶対必要だからですね。これ土台ですから。だからちょっと荒れ狂っても外れた行動を取ったとしてもね、これはもうこれとして、しょうがないかなということだね。そこそこでその時点その時点では問題回避のためにいいんですよ。根本的な解決にはなっていないとやっぱどうしても家庭を巻き込んだ信頼関係というところを、これから必要かなと思うんですけども、苦勞するけども、結局最後は自分に良さとして返ってくるから。これがそのまま改善されないとずっと苦しいだろうなと先生が。それはちょっと悪循環にならなければいいが、私の懸念がどっかに向かっていて、教育長すいませんね。ただね、いろんな視点を持っておられるから押さえるべきところを押さえてお話されていればいいけれど。何かあったときに対応できますかっていう、こればかりは違ったときに困るからですね動揺するからですね。こういうのもあるよということを押さえておけばね。しっかり対応、いろんな対応を多面的に対応していくということが土台になればいいかと思います。

恵利教育長

- ・ありがとうございます。それでは次に、地域クラブ活動パフォーマンス部の紹介を。

本田専門監

- ・前年度からお伝えをしてきたんですけども、具体的な活動についてご紹介させていただきます。1枚紙のもので下の方に活動の様子がついてるものがありますのでご覧ください。地域クラブ活動仮称でパフォーマンス部とつけたんですけども、今はもうパフォーマンス部になりつつあります。これは吹奏楽を中心として地域クラブ活動として実施しているものです。活動では、現在は吹奏楽を中心ということでスタートしております。始めたのが5月9日に第1回をやって、現在まで水曜日の放課後と土曜日の午後の週2回、活動をしています。講師の先生は2名西都から来てくださっております。非常に困難だった楽器については高鍋高等学校の方からお借りすることができて、子供たちこれを使って練習をしているところです。活動場所はリパリスホールで行っております。非常に毎回楽しみにして

活動しています。先生も熱心に指導してくださって向上が見られているところでございます。初めての活動だったので、いろんな障壁を乗り越えながらここまでたどり着いたんですけども、子供たちもですね初めての体験で最初はマウスピースを口にして息の吹き方から練習しました。なかなか難しいんですね。苦勞しながら、音を出すのだけでも大変なんですけども、だんだんとこれがメロディーになってきて、今もう十分上達をしております。今日はですね、ちょっと様子を見てもらおうと思って、5 回目ぐらいのときに私が覗きに行った時の様子を動画にとったので見てもらおうかと思っています。やっと形になり始めたってところなんです。練習会のその日の最後の様子です。生涯学習の集いが今度ありますけども、そこで今出演する方を集めてるんですけど、パフォーマンス部の方も協力させていただいて、ようやく発表の機会がいただけそうなところになって参りましたので、検討しているところです。

金永委員

- ・指導者は先生ですか。

本田専門監

- ・教員の方ではなくて、西都中学校で吹奏楽を指導されている先生が来てくださって、木城でも指導をしてくださっている状況です。

恵利教育長

- ・この 14 名の子供たちここに会わなければ、多分何もなくとぼとぼ帰ってた子供たちなんですけど、この楽器に出会って、このメンバー、先生に出会ってこういう新たな自分発見をやっています。昨日も私も演奏をききましたが大分うまくなっていて涙が出そうでした。良い発表があると思うので楽しみにしてください。それではサマーワークショップについて、佐々木係長からお願いいたします。

佐々木係長

- ・ホチキスどめ 2 ヶ所してる冊子をご覧ください。詳細は後程こちらをまたご覧いただきたいんですが、概要だけ説明させていただきます。先ほどの 7 月の行事予定でもありましたが、7 月 24 日終業式の日に実施されます。主に学園の方で計画されており、教育委員会と社会教育団体が協力して実施するような形になります。主にはですね、自治公民館長の協力を得て実施するものになります。7 月 24 日午前 8 時 30 分から 9 時 15 分、それぞれの子供たちが各公民館、基本的に自分の公民館ですね、ただ遠いところの公民館については、近くの公民館に行ってもらうような形で実施するような形になります。24 の公民館会場等で、それぞれ実施するような形になります。ZOOM を使って各本部とのやりとりをしながら、防災であったり防犯の活動をしていくような形になります。協力団体については、表紙を 1 枚めくった裏の中ほどに載っております。自公連だとかさんさんクラブ、地婦連、民生委員・児童委員、社協、見守り隊等々の協力を得ながら実施するような形になります。私の方からは以上です。

恵利教育長

- ・昨年が6年生8年生だったと思うんですけど2学年だけが体験しましたが、今年は全学年の子供たちが24の公民館等で1時間ですけど、防災や、それぞれの地域の方々と交流し、初めてすることですので、どうなるかっていうことではありますけど、ぜひ、公民館、地域を知る入口になって欲しいなあ、これは是非とも続けていきたい行事の1つであります。

佐々木係長

- ・この行事が終わった後に子供たちは学校へ登校することになります。遠いところについては町営バスなどを使って送迎をする形になります。

恵利教育長

- ・それから終業式を無事迎えるということです。以上でございます。

金永委員

- ・これは地域を知れるのだからいいんじゃないですかね。

恵利教育長

- ・他に何かございましたらお受けしますからよろしかったでしょうか。

(3) 意見交換

倉永委員

- ・ちょっと戻りますが来年度、国スポが体育館を利用してされるということで、以前空調を整備するということで予算も組んでされてるようですが、進捗状況とかはいかがでしょうか。

橋本課長補佐

- ・国庫事業採択を受けまして来週、設計の契約を結びます。それに基づいて、9月とかあたりで建築費の補正予算を要求しまして着工に入ります。3月までには完成させる予定でございます。

倉永委員

- ・実際工事が入るのは秋以降ぐらいですかね。

橋本課長補佐

- ・実際は、今から機械選定とかに入るんですけど、電気のキュービクル関係がメインになってくるので、工程が出てくればそれで、関係団体とかにお知らせする形になると思います。

倉永委員

- ・結構町体育館の利用者が多いですよ。ミニバレーそういった際も使用は可能ですか。

橋本課長補佐

- ・基本的には昼間の工事になりますので、夜間は使用可能かなと思います。

倉永委員

- ・空調がついた後も使用可能ですか。

橋本課長補佐

- ・空調がついた後も使えますけれども、当然空調をつけますので使用料が掛かってくると思います。一応使用料に関してはそういうことで設定させていただくことになるかと思っています。

恵利教育長

- ・随時、町民の方にはご連絡をさせていただきます。

倉永委員

- ・もうひとつお尋ねなんですけど、直接関係ないかもしれませんが、3月末でシルバー人材センターが解散をされたそのあとを受けて、ふるさと振興協会がというような話を伺ったんですが何かわかりますか。

橋本課長補佐

- ・主だった教育課の施設関係はふるさと振興協会に委託しています。清掃とか草刈りです。

上西委員

- ・よろしいですか。6月7日の宮崎県民スポーツ大会では、5年生6名が大変お世話になりました。半年間かけて練習を頑張ってきた。個性ある元気な5年生を指導するのは大変だったんじゃないかなと本当にお世話になりました。本番では見事に堂々と披露している姿が見られて、ステージ慣れしている子供たちに親も感動しました。本当にお世話になりました。ありがとうございます。

恵利教育長

- ・エアロビックチーム木城の子供たちですね。来年も新たに募集されて、来年の本番でも参加をよろしくお願いします。

金永委員

- ・よろしいですか。夏休みの部活動はあるんですね。指導者は外部指導員ですか。

本田専門監

- ・部活動指導員の方も指導されますし、一緒に顧問が指導されることも多分あると思います。がそれは部活動によって違うと思います。

恵利教育長

次回定例会の日程について課長補佐からよろしくお願いします。

(4) 次回 定例会日程 (案)

橋本課長補佐

- ・次回7月の定例会を7月30日木曜日、午前9時00分から計画したいと思いますが、委員の皆様のご都合はいかがでしょうか。ありがとうございます。

恵利教育長

- ・宜しくしたいと思います。

橋本課長補佐

- ・以上をもちまして、令和8年6月木城町教育委員会定例会を閉会させていただきます。一同礼ありがとうございました。

次回定例会日程

7月30日(木) 午前9時00分からリバリス小会議室

この会議録は、事実と相違ないことを証するため、ここに署名する。

木城町教育委員会

会議録署名委員

教 育 長

恵 利 修 二

委 員

上 西 幸 子